

中部ESD拠点運営委員会（第4回）議事メモ

日 時 平成20年4月24日（木）18時20分～20時50分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（810号室）

出席者 竹内委員長、千頭副委員長、寺井、天野、長谷川、高山、新海の各委員

オブザーバー 武者小路、羽後

事務局 古澤、岡本、永田

議事に先立ち、委員長から、配付資料に基づき、前回の委員会で承認を得、施行した「中部ESD運営委員会に関する申合せ（平成20年3月27日中部ESD運営委員会決定）」及び「中部ESD協議会の後援名義使用等に関する要綱（平成20年3月27日中部ESD運営委員会決定）」について説明があった。

議 事

1. 国連大学への提出書類について

委員長から、国連大学への提出書類について検討願いたい旨の発言があり、事務局から、配付資料に基づき、①ファクトシート（RCE Chubu）、②アニュアルレポート（Chubu RCE annual reporting）、③エバリュエーションテーブル（RCE Chubu、RCE Chubu Evaluation Table (Draft)）の各内容について説明があり、特に、エバリュエーションの各例示項目に係る評価項目について種々意見交換、確認等が行われ、以下のように措置することとした。

①RCEの立ち上げ初年度ということもあり、協議会会員全員による評価は行わず、エバリュエーションテーブルを元に、運営委員による自己評価を行う。

②ただし、協議会会員からは、各団体のESD活動の情報や、ESD活動をさらに発展させるために協議会や運営委員会に望むサポートの内容案などを提供してもらい、自己評価の参考とすることとした。

③その他、当該項目に関して、各委員のコメントを得て、内容を再度見直し、最終のものを作成することとした。5月の連休明けを目途に、各団体の情報を収集し、次回の本委員会でこれらの内容を議論・整理することとした。

関連して、拠点の役割、機能、事業計画を確立していくことが重要であることを確認した。

2. ホームページについて

天野委員から、3月31日（月）に会合をもち検討した、配付資料のトップページ（未定稿）の内容に沿って、4月30日（水）に再度会合をもち、簡単なものから作り上げていきたい旨の説明の後、①環境に偏ることなくいろいろな活動がみられるようデザインする、②情報の最新化の方法について検討する、③協議会参加各団体のアイコンをはって情報を流す、④マップはリー

フレットのものを活用してはどうか、⑤（地図情報処理など）多少の経費がかかってより良いものを作るなど種々意見交換が行われ、本日の意見を踏まえ、4月30日（水）の会合で本日の意見を踏まえ立ち上げに向け検討願うこととした。なお、岐阜大学、三重大学、なごや環境大学、EPO中部からもこの会合に加わっていただきたいとの要請があった。

3. 第2回総会及びフォーラムについて

事務局から、第2回総会及びフォーラムを10月25日（土）、26日（日）の両日に開催を予定したい旨の説明があり、会場は名古屋大学にお願いすることで調整することとし、具体的なスケジュール、フォーラムのプログラムは、実行委員会を設け具体的な計画（個人の方の参加も含め。）を立てていくこととした。

4. 協議会参加団体の承認について

事務局から、配付資料に基づき参加同意のあった、核融合科学研究所、金生山化石研究会、三重県、金生山化石博物館、日進自然観察会及び日本最古の石博物館について説明があり、これを承認した。なお、今後参加同意の際に当該団体の活動内容等がわかる資料を添えてもらうこととする。

5. 今後の活動について

高山委員から、今後の活動に関する情報提供として、配付資料に基づき、①「伊勢三河湾流域圏の持続可能性」をどう扱うか、②2010年生物多様性COP10会議の成功にいかに関与するか（中部ESD拠点の姿勢をどう示すか）、③「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究募集について説明があり、COP10とのかかわり方、日・中・韓のつながりを強めることなどについて意見交換の後、「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究募集（〆切：6月上旬）の応募に向け、大学・市民・企業と共同した企画（計画）を5月に会合をもち、これへの対応を考えることとした。

6. その他

1) 次回運営委員会の開催について

次回運営委員会を、国連大学への提出書類及び「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究募集の企画（計画）について議論するため、5月12日（月）13時から、中部大学名古屋キャンパスで開催することとした。

以 上